

(様式1)

平成26年度大仙市環境教育研究指定校事業実施計画

1. 指定校の概要 (平成26年度4月1日現在)

(学校名)

大仙市立 大曲南中学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計	教員数
学級数	1	1	1				1	4	13
児童生徒数	27	30	27				2	86	

2. 研究課題及びその設定理由

(1) 研究課題と研究主題

課題例：①, ②, ③, ④ テーマ例：a, d, e, f

研究課題 自然と子どもの心を未来につなぐ「ESD」
～「エネルギー」「国際理解」「食」を土台にして～

(2) 研究課題設定の理由

本校では「未来の地球 今 私たちにできること」を合い言葉に、環境教育を本校教育の柱と位置付け、様々な取組を行い6年が過ぎた。小・中学校や地域との連携を通して「考え、行動する環境教育」に取り組んだ。本校の活動は地域に定着し、双方向の交流と連携へと充実してきた。また、「エネルギー教育」「国際理解教育」「食育」の3本柱をベースに「持続可能な発展のための教育(ESD)」を意識した環境教育の実践にも取り組んできた。単なる体験主義ではなく、「思考力・判断力・表現力」に視点を置いた環境教育を実践し、「社会的実践力」を育てることでESDの根本となる「生きる力」の育成に努めたいと考えている。

本校では環境学習を教育課程全般に位置付け、総合的な学習の時間を中心とし各教科等の関連を図った、学年ごとのカリキュラムデザインを「ESDカレンダー」として作成し、それに基づいて実践している。昨年度、学習指導要領の趣旨踏まえて改編した「ESDカレンダー」を本年度はさらに見直し、ESDから「生きる力」を身に付けるような取組を展開したい。本校の「ESDカレンダー」には、資質・能力のつながり、教材のつながりを示している。環境教育で交流と連携を深化させ、ESDにアプローチしたいと考える。

環境教育の目的は「持続可能な社会に向けた人づくり」である。思考力・判断力・実践力を伴った「人」を育むためにも、これまでの取組をもとに「エネルギー教育」「国際理解教育」「食育」の土台をより盤石なものにし、「人」「教材」「能力・態度」のつながりを強く意識しながら、地域を巻き込んだ活動を展開することで、ESDに迫りたいと考え、本研究課題を設定した。

3. 研究内容

総合的な学習の時間を中心とし、教科等との関連を図りながら、学校教育全体での環境教育を実践するために作成した学年ごとの「ESDカレンダー」を、小学校や学年間の系統性を踏まえて再編する。また、これまでの小学校や地域との連携、外郭団体等との関係を維持しながら、「交流と連携」による環境教育の充実を推し進めたい。

(1) 組織体制

全教職員が以下の3部門のいずれかに所属し、各部門の連携のもと全校体制で研究を推進する。

- ・指導計画・調査資料部 …資料整備, 指導計画, アンケート分析, 評価, 予算会計等
- ・授業研究部 …授業の計画と推進, 指導案作成と検討, 研究大会等
- ・体験・連携部 …各種体験活動の計画, 小中高連携, 記録, 環境通信発行等

(2) 主な取組内容

〈「環境教育」全体に関わる取組〉

- 4月 ・「E S Dカレンダー」作成
- 7月 ・「企業の社会的責任報告書 (CSR <corporate social responsibility> レポート)」から環境を考える。
 - ・親水公園クリーンアップ
 - ・小・中合同クリーンアップ
- 8月 ・アルミ缶, ペットボトルキャップ回収活動
 - ・夏休み環境課題 (作文, 写真, ポスター等)
- 10月 ・環境学習発表会 (学校祭で)
- 11月 ・オープンスクール (環境学習発表会)
 - 小・中学校連携で地域の環境を保全する活動に取り組むことで, 環境保全に関する意識や行動力を高めるとともに, 持続可能な社会づくりに主体的に参画できる生徒を育てる。

〈「エネルギー教育」の視点からの取組〉

- 各教科等で「エネルギー」に関連する内容を, 各学年の「E S Dカレンダー」に位置付ける。
- 5月 ・緑のカーテンプロジェクト開始
 - 7月 ・火力発電所見学・ゴミ焼却場見学
 - 8月 ・大仙市環境家族宣言参加
 - ・キャリアスタートウィークでのエコ学習
 - 12月 ・企業によるCSR出前授業
 - 東日本大震災後の様々な経験を踏まえ, エネルギーについて多方面から学習を進めることで, 持続可能な社会を構築していくために, これからのエネルギーと自分たちができることについて考える機会とする。

〈「国際理解教育」の視点からの取組〉

- 各教科等で「国際理解」に関連する内容を, 各学年の「E S Dカレンダー」に位置付ける。
- 5月 ・海外の環境問題調査
 - 7月 ・国際理解から環境を考えるワークショップ (あきた地球環境会議, 秋田商業高校と連携)
 - 9月 ・秋田国際教養大学訪問 (留学生との交流)
 - ユネスコスクールの仲間である, 秋田商業高校との連携を密にする。地球環境を経済や国際関係から理解することを通じて, グローバルな視点で取り組むべきことと, 個として自分ができることを考える機会とする。

〈「食育」の視点からの取組〉

- 各教科で「食育」に関連する内容を, 各学年の「E S Dカレンダー」に位置付ける。
- 5月 ・緑のカーテンプロジェクト (ゴーヤ栽培) 開始
 - ・「有機肥料で育てる野菜」栽培開始
 - 6月 ・微生物の役割についての講演会 (大曲農業高校と連携)
 - 9月 ・省エネクッキング出前授業 (あきた地球環境会議)
 - ・大仙市食生活改善推進委員による調理授業
 - 10月 ・「有機肥料で育てる野菜」を使用した調理実習
 - 緑のカーテンのゴーヤ栽培, 給食残飯由来有機肥料使用の野菜栽培を行い, 毎日の「食」と環境との関わりについて考える機会とする。外部団体との連携を取り入れ, 出前授業を実施する。

(3) 共有化の方策

他校との情報交換等を積極的に行ったり, 活動の様子や成果を発信したりすることで, 地域と一体となって環境教育に取り組めるようにする。校内に「E S D環境学習コーナー」を設置し, 生徒の学習状況や成果を掲示するとともに, 学校報や学年報を通して保護者に向けて学習の成果を広く発信する。また, オープンスクールを開催し, 本校の取組を地域に向けて発信する。さらに, 本校のホームページ等でも研究成果を公開する。

4. 地域との連携内容

- 5月 ・有機肥料で育てる野菜栽培
給食センターの残飯由来の堆肥を使って有機栽培した野菜を、地元人材の指導下で栽培する。
- 7月 ・小・中合同クリーンアップ
小・中学生を縦割りにし、20前後のグループに分け、自分が住んでいる地域のクリーンアップを中学生がリーダーとなって行う。その際、ペットボトルキャップも回収する。
- 8月 ・ゴーヤの実の無料配布
本校で育てたゴーヤの実を地域の皆さんに分けて、収穫の喜びを分かち合う。
- 10月 ・学校祭で野菜販売
給食センターの堆肥を使って有機栽培した野菜を学校祭の環境ブースで販売し、地域に活動の様子を公開する。
- 11月 ・「オープンスクール」で授業を地域にも公開する。

5. 本事業における取組の評価・検証の計画

- ①学習前と学習後のイメージマップの比較
学習の深まりを評価・検証する。
- ②学習前後の意識調査（アンケート）の比較
環境問題に対する意識の変容を検証する。
- ③学習中のパフォーマンス評価
付箋を使った評価や、プレゼンテーションの評価を行う
- ④生徒の感想等の記述からの評価
ポートフォリオから、生徒の変容を確認する。
- ⑤E S Dの評価
「E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の7観点から評価し、指導に生かす。
- ⑥行動評価
エコチャレンジ等実施後の評価
- ⑦教師へのアンケート調査
カリキュラムの評価、生徒の変容の評価のためのアンケートを行う。
- ⑧各教科等での評価
各教科等に付加した環境教育のねらいを、単元（題材）の評価と同時に行い、フィードバックする。